

# これからの地域と経済

地域と“知”の連携 そして人財づくり！

正社員を解雇するとしたら、地域全体では所得は落ち込みます。数字に追われると地域は疲弊（ひへい）していき、利が少なく害が多い。行政は常に地域全体の利害を考えないとならないといえます。主な産業を強くし地域に関連づける戦略性がないとダメですね。大事なのは地域経済の分析と、地域の信頼感あるリーダーとをどうつなぎ実行していくかです。地域と大学が連携して議論の場をつくり、小中学校のうちから地域の人との取り組みを設計し、高校・高専を卒業して地域内の企業に入った人たちのモチベーションを高めること。そして、例えばお祭りにリーダーシップを発揮できるなどの地域の担い手となる人財育成プログラムを組む、また社会人再教育の体制もつくるなど、地域の人財育成をシステム化するということです。

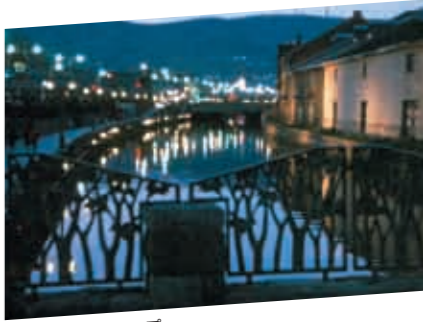
**幸田** リサーチや分析ほど、日本人に馴染んでいないものはないと常々思います。客観的にまず昨日を分析し、今日を知る。そこで明日に何をすべきか見えてくる。正しい検証をしないと、経験という名を借りた個人の思い込みや独りよがり、前例に固執した情緒的で感覚的な範囲を超えないんです。地域のリーダーかコ―ディネーターが、客観的に分析して結集していくことが大事ですね。

たの後に続く人もこんなにいるんですよ」とアピールする。地域活性化学会・地域活性機構では年内に数回のシンポジウムを組んでますが、この話もテーマにしています。

期待できる  
UR都市機構の新しい取り組み

**幸田** 情熱に賛同できる人が地域に一人でもいるといいですね。地域の内側から生まれるエネルギーが一番大事です。地方都市の再生にUR都市機構はどう役割を果たすべきとお考えでしょうか。

**木村** 例えば中心市街地の活性化も運営する人をどう育成するのか、東京農大オホーツク校では農業ビジネスのMBA<sup>※2</sup>をつくらうとしています。MBAを取ったら成り立つほど農業は甘くない。私も一緒に考えているのが会社の地域貢献として正社員で受け入れてもらい、経験を積み、北海道の農業の担い手になる仕組みです。都市再生では、中心市街地活性化の継続・進化に重要な人財育成の仕組みをどうつくるかが最重要です。地域に行けば行くほど縦割りでのつながりが難しい。地域の中では子供の時からお互いが知り合い、なぜあなたにいわれなくてはなら



小樽のライトアップ  
運河沿いの倉庫群やまちなかの歴史的建造物が美しく魅けている。



小樽はガラス工芸の街  
職人さんたちの連携で新しい力をつけはじめています。

新しい組織の立ち上げ

**木村** 平成18年度に地域と大学の連携として、北陸先端科学技術大学院大学をモデルとして院生40人、首長、行政、NPO等70人で6つのチームをつくり、地域課題を整理し、政策を策定、実践しました。平成19年度は10校で開講し、その10大学が中心となり20年12月には政策提言の機関「地域活性化学会」を発足させた。平成21年度は30を超える大学で開講して

いのか(笑)となります。第三者が地域の実情を知らなからまとめていくことも必要です。地域主体で運営する人財育成の支援のために、UR都市機構が場づくりの役割を担えば、地域により一層信頼され、心強い存在になると思います。

**幸田** 現在衰退している地方の都市再生と活性化をコラボレートする。いま大事なものは動きを生み出し、育てることです。地方が自信をなくし、活力は都市部だけという沈滞ムードのなかで、地方のパッションを持っている人と協力して、動きを渦にすることが、UR都市機構の役目だと思いますね。

ます。なお平成21年8月には、民間主導の地域を応援する実働機関として「地域活性機構」が発足しました。

**幸田** どういうシステムでしょうか。

**木村** 地域活性化学会は地域活性化策を提言する。地域で実践するときにコ―ディネーター等が不足すればお手伝いするのが地域活性機構です。ホームページで情報共有の場を設けています。他ではこうしている、じゃあ自分の地域でもなったとき、機構がプロジェクトを組んで不足する人材派遣や政策実現をお手伝いします。多くの学会の活動は年数回の研究会と学会誌の作成ですが、機構は具体的に現場のフォローを行います。

**幸田** 地域活性化学会でのアイデアを現実化するノウハウとか、ルールづくりからサポートするわけですね。

**木村** 地域の大学を場にして課題を出し合い、何を優先順位で実践するか整理し、行政や大学の先生、学生、NPO等も入って議論します。報告書作成だけでなく3年5年の計画で具体的に実践するんです。大事なのは、啓発からはじめ、シンポジウムをやりながら他の事例も学び、意見交換し、情報共有と具体の実行を地域の皆さんではじめることです。

**木村** まさにそうです。地域だけではモチベーションが高まらない、行政職員も国が法律をつくり予算化したものをやるのが仕事と思っただけですね。これからは、自分たちで地域のことを考え、効果的な連携、欠けているところはどこかをしっかりと見つけて全体の最適化を踏まえてフォローする人材と機関が必要なんです。

**幸田** 産学官の連携は、すぐ癒着だと批判する風潮ですが、次の世代に持続していく街にしようと、UR都市機構もすでに成熟したニュータウンやつくばエクスプレス沿線の新しい街では、まちづくりからまち育てへとシフトし、地域の大学や市民、NPO、行政や警察、

学校まで網羅したテーブルを用意し、コ―ディネーター役を果たしています。

**木村** これからは行政の場づくりが重要ですが、UR都市機構も同じ役割ですね。地域の主体が様々な関わりをもてる場をつくり、運営できる人材を育てる。UR

**幸田** 木村さんは農水省ですから、農業とか農産物に派生する課題がメインなのですか。

**木村** 農水省に向となった理由は、地域と大学の連携で、将来の農林水産業の人財を大学を通じて育成するという役割です。私は北海道出身なので北海道大学、酪農学園大学、帯広畜産大学、東京農業大学オホーツク校などの連携による人財育成の仕組みづくりには大変関心を持っています。

**幸田** 農業にはまだ伸ばせる分野が眠っていて、ビジネスとして若者が興味をもち、夢を描いて参加できる可能性があると思います。農業の魅力、潜在力を若者が活かせるシステムをつくることで農業が活性化すれば、日本経済の活性化にもつながる、その一番近いところに木村さんはいらっしゃるとい印象ですね。

**木村** 私は、人のモチベーションをどう高めるか、いつも考えてます。東京農大オホーツク校ではエミューという鳥を飼育し、肉はソーセージ、脂肪はクリーム・オイル・石鹸、卵でどら焼きをつくる。雪にも強い鳥で1年半で成鳥、13年生き、1年間で20個の卵を産みます。農家の皆さんの所得向上の方策として研究しています。「農業こそ最高の仕事！あな

都市機構がもう手がけられていることは嬉しいですね。5年先10年先、平成21年にこの街にいた私たちが何を残したかを問われます。いま、地域のあらゆる産業を活かし、新しい資源を生み出す努力をしないとなりません。

**幸田** 地域の活性化は地域の人が主役で、自分たちが幸せになるために自らどうするか、どこまで覚悟できるかがスタートだと思っております。

**木村** 最初の話ですが、それには小さい頃から地域や地域の人に関わってこないと愛着心が持てない。街の魅力を生み出して再発見する仕組みづくり、私はそれをずっとやってきました。UR都市機構では地方のニーズに応え、例えば、地域の不足しがちな事業を継続進化しうる人財の育成や派遣に要する予算や、信頼ある地域リーダーと外部協力者との連携事業に一層の支援をいただくこととを考えます。地域を支えるのは全て人です。他の地域のまねでなく、いかに先駆的な地域になれるか、UR都市機構はこれまでの様々な事例をお持ちですから、ケースに応じたアドバースも重要な役割だと考えます。

**幸田** 今日はありがとうございました。一層のご活躍を期待しています。



木村 俊昭

きむら としあき

農林水産省大臣官房政策課 企画官  
1960年北海道生まれ。1984年小樽市入庁後、財政部、議会事務局、企画部、総務部、経済部を経て、産業振興課長、企画政策室主幹（プロジェクト担当）。2006年4月から内閣官房・内閣府企画官として、地域再生策の策定・推進、「地域と大学との連携」、地域再生制度事後評価、政府広報活動のほか、地域再生に関する調査研究を担当。地方再生戦略では九州圏・沖縄圏を担当。2009年4月より現職。地域の担い手育成、地域ビジネス創出など、主に農林水産業を中心とした「地域と大学との連携」等を担当。NHK『プロフェッショナル 仕事の流儀』放送。地域活性化伝道師（国）、地域活性化学会理事（広報交流委員会委員長）。

L-garden Bar and Ristorante  
TEL 03-5561-0601 東京都港区六本木3-15-15 日曜定休  
営業時間11:30~14:00 / 18:30~4:00(Bar) <http://www.l-garden-roppongi.com/>

※2 MBA (Master of Business Administration)  
経営学修士と呼ばれ、経営の大学院を修了すると授与される学位。非常に実践的な内容で、学問の追求というよりは経営のプロを養成することに主眼をおいている。

地域活性化学会HP <http://www.hosei-web.jp/chiiki/>  
地域活性機構HP <http://www.c-kassei.com>